

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より、火出で来て、風おしおほひて、せめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。人の書かする仏も^Aおはしけり。また、衣着ぬ妻子なども、^Bさながら内にありけり。^①それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、既に我が家に移りて、煙、炎、くゆりけるまで、^Cおほかた、向かひのつらに立ちて眺めければ、^Dあさましきこと。」

とて、人ども、来とぶらひけれど、騒がず。「いかに。」と、人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひけり。「^②あはれ、しつるせうとくかな。^E年ごろ

は、^Fわろく書きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「^③こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、^④なん

ふ、物のつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎を悪しく書きけるなり。今見れば、かう^Xこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそ、せうとくよ。^⑤この道を立てて世にあらんには、仏だによく

書き奉らば、百千の家も出で来なん。わ党たち^Yこそ、^⑥させる能もおはせねば、ものをも惜しみたまへと言ひて、あざ笑ひて^Zこそ立てりけれ。

^⑦その後、良秀がよぢり不動とて、今に、人々、めで合へり。

- (1) ~~~ A～Fの意味をそれぞれ答えなさい。
- (2) X～Zの結びの語を答えなさい。
- (3) ①の内容を具体的に説明しなさい。
- (4) ②について、次の各問に答えなさい。
 - (a) 現代仮名遣いに直しなさい。
 - (b) 口語訳しなさい。
 - (c) 「せうとく」の内容を具体的に説明しなさい。
- (5) ③について、「かくて」はだれのどのような行為をさすか、答えなさい。
- (6) ④について、次の各問に答えなさい。
 - (a) 「なんぞふ」を現代仮名遣いに直しなさい。
 - (b) 口語訳しなさい。
- (7) ⑤について、「この道」の内容を明らかにした上で、口語訳しなさい。
- (8) ⑥を口語訳しなさい。
- (9) ⑦の後ろに省略されている語句を答えなさい。
- (10) 本文中には、「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは、わろく書きけるものかな。」以外にもう一箇所良秀の発言部分がある。その発言部分の初めと終わりの三字を、それぞれ抜き出しなさい。
- (11) 本文が収められている書物名を答えなさい。

- (1) A いらっしやった B そのまま
C だいたいずっと D たいへんなこと
E 長年 F まずく
- (2) X けれ Y たまへ Z けれ
- (3) 注文を受けた仏画や自分の妻子がまだ家の中に残っていること。
- (4) (a) あわれ、しつるしようにとくかな。
(b) ああ、大変なもうけものをしたことよ。
(c) 家が燃えたことによつて、不動明王の火炎の描き方が分かったこと。
- (5) 良秀の、家が焼けるのを見て、うなずいたり笑ったりしている行為。
- (6) (a) なんじょう
(b) どうして物の怪がとりつくことがあるのか、いや、ない。
- (7) この絵仏師という仕事に携わつて世間を渡ろうとするからには、せめて仏様だけでもうまく書き申し上げるならば、百千の家もきつと建つだろう。
- (8) これといった才能もお持ち合わせにならないのでものを惜しみなさるのだ。
- (9) あらん
- (10) なんでくたまへ
- (11) 宇治拾遺物語